



2019年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2018年11月5日
東

上場会社名 株式会社第一興商 上場取引所
 コード番号 7458 URL <https://www.dkkaraoke.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 保志 忠郊
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 西原 康尚 (TEL) 03 (3280) 2151
 四半期報告書提出予定日 2018年11月9日 配当支払開始予定日 2018年12月5日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第2四半期の連結業績 (2018年4月1日～2018年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	69,823	1.2	10,474	△2.8	11,225	△2.2	7,253	△1.6
2018年3月期第2四半期	69,022	0.3	10,776	10.7	11,474	14.6	7,373	75.4

(注) 包括利益 2019年3月期第2四半期 7,291百万円(△3.7%) 2018年3月期第2四半期 7,568百万円(12.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	127.33	127.19
2018年3月期第2四半期	129.16	129.04

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第2四半期	182,759	129,491	70.0
2018年3月期	180,190	125,356	68.7

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 127,861百万円 2018年3月期 123,792百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	55.00	—	56.00	111.00
2019年3月期	—	56.00	—	—	—
2019年3月期(予想)	—	—	—	56.00	112.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想 (2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	142,500	0.8	21,200	0.5	22,000	0.7	13,500	2.9	236.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2019年3月期2Q	57,234,200株	2018年3月期	57,234,200株
2019年3月期2Q	266,262株	2018年3月期	266,228株
2019年3月期2Q	56,967,945株	2018年3月期2Q	57,093,654株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 4「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績の状況	2
(2) 財政状態の状況	4
(3) キャッシュ・フローの状況	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間(2018年4月1日～2018年9月30日、以下「当第2四半期」という。)におけるわが国の経済は、引続き堅調な雇用・所得環境を背景に、緩やかな回復基調が続くものの、相次ぐ自然災害の経済への影響や米国発の保護主義的な通商・外交政策による貿易摩擦の懸念など、依然として先行き不安定な状況で推移いたしました。

当カラオケ業界におきましては、ナイト市場は依然として漸減傾向で推移しており、また、カラオケボックス市場における事業者間の競争が激しさを増すなか、一部大手カラオケチェーン店間の経営統合が実行されるなど、同市場の寡占化が進行しております。一方、エルダー市場においては、「歌うこと＝健康」の認知が拡がり、市場は順調に拡大しております。

この様ななか、各事業におきまして諸施策を実施した結果、当第2四半期は、台風等による影響が一部にあったものの、期初計画を上回る利益を確保し、売上高は69,823百万円(前年同期比1.2%増)、利益におきましては、営業利益は10,474百万円(同2.8%減)、経常利益は11,225百万円(同2.2%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては7,253百万円(同1.6%減)となりました。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	69,022	69,823	800	1.2%
営業利益	10,776	10,474	△302	△2.8%
経常利益	11,474	11,225	△248	△2.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,373	7,253	△120	△1.6%

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(業務用カラオケ)

当事業におきましては、引続き安定収益と位置付ける機器賃貸件数の拡大に加え、旧機種から新機種への入れ替え促進による情報提供料収入単価の向上に注力いたしました。また、カラオケ市場の活性化とカラオケDAMの差別化を図るため、「B'z」や「安室奈美恵」を始めとする人気アーティストのMVやLIVE映像を独占配信するなど、商品力の強化に努めました。エルダー市場におきましては、(一社)日本音楽健康協会との連携により、DKエルダーシステムの普及活動を展開するなど、稼働台数の拡大に注力しております。また、下期には宿泊市場・宴会市場に特化した新商品「Party DAM 20V」の発売による商品ラインアップの強化に加え、安定収益基盤の強化を引き続き推進してまいります。

以上の結果、「LIVE DAM STADIUM」の発売から3年経過したことに伴い、商品出荷が軟調に推移したことにより、売上高は前年同期比0.5%の減収となりました。利益面におきましては、商品販売や機器賃貸の原価低減に努めたことにより、営業利益は前年同期比2.4%の増益となりました。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	32,107	31,941	△166	△0.5%
営業利益	7,888	8,082	193	2.4%

(カラオケ・飲食店舗)

当事業におきましては、将来に向けたブランド力の更なる向上を図るため、新店舗の出店を始め顧客満足度を高めるハード・ソフト両面の強化に注力するなか、カラオケルーム「ビッグエコー」の新たなフラッグシップ店舗、「梅田茶屋町本店」「渋谷センター街本店」を含む10店舗を出店いたしました。

ハード面におきましては、ビッグエコー30周年キャンペーン企画として、大手カラオケチェーン初となる、ビッグエコー全店へのWi-Fi及びスマホ充電器の設置やNTTドコモ社の「dポイント」サービスを導入するなど、お客様への利便性向上に努めました。

ソフト面におきましては、採用方法の多様化を進めると共に、全国約30拠点を結ぶWeb研修の拡充を図り教育体制を強化するなど、人材の確保と育成に努めました。

以上の結果、当事業の売上高は、7月の記録的な豪雨や9月の大型台風などの影響から、既存店売上高は軟調に推移したものの、前期に子会社化した株式会社Airsideの売上貢献により、前年同期比3.9%の増収となりました。一方、営業利益におきましては、上記フラッグシップ店舗を含む新店舗の出店や、店舗スタッフの平均時給の上昇による原価増のほか、30周年を記念したお客様への還元キャンペーンなどの販管費の増加もあり、前年同期比14.4%の減益となりました。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	28,907	30,031	1,123	3.9%
営業利益	3,566	3,054	△512	△14.4%

(音楽ソフト)

当事業におきましては、業務用通信カラオケ事業をはじめとしたグループネットワークの活用、連携強化による相乗効果と業務の効率化に注力いたしました。また、積極的にヒット曲の創出に努め、新人アーティストの発掘においては一定の成果をおさめたものの、厳しさを増す市場環境のなか、売上高が前年同期比10.4%減少したことにより99百万円の営業損失となりました。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	4,022	3,606	△416	△10.4%
営業利益	△3	△99	△96	—

(その他)

当事業におきましては、BGM放送事業において光回線を活用した「スターデジオ光」に加え、モバイル回線を活用した「スターデジオAir」をこの4月より提供開始いたしました。また、「ザ・パーク」ブランドで展開するコインパーキング事業の拡大に努めるほか、不動産賃貸、コンシューマー向けストーリーミングカラオケサービスなども堅調に推移するなか、不動産賃貸収入やパーキング事業収入等の増加により売上高は前年同期比6.5%の増収、営業利益におきましては、前年同期比5.9%の増益となりました。

(百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	3,984	4,244	260	6.5%
営業利益	784	830	46	5.9%

(2) 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ2,569百万円増加し、182,759百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動資産では、現金及び預金が5,785百万円及びその他に含まれる前払費用が1,222百万円それぞれ増加し、有価証券が4,969百万円減少しております。

固定資産では、敷金及び保証金が691百万円増加しております。

負債の部につきましては、前連結会計年度末に比べ1,565百万円減少し、53,268百万円となりました。

これは主に、流動負債のその他に含まれる未払金が1,493百万円減少したことによるものであります。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べ4,135百万円増加し、129,491百万円となりました。

これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加7,253百万円及び剰余金の配当による利益剰余金の減少3,190百万円によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ826百万円増加し、50,563百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前四半期純利益が11,243百万円、減価償却実施額が7,237百万円及び法人税等の支払額が4,470百万円等により、前年同四半期連結累計期間に比べ1,056百万円減少し、13,239百万円となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、有形固定資産の取得による支出が5,032百万円、無形固定資産の取得による支出が2,247百万円、映像使用許諾権の取得による支出が1,009百万円及び敷金及び保証金の差入による支出が1,111百万円等により、前年同四半期連結累計期間に比べ4,850百万円減少し、9,101百万円となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、配当金の支払額が3,190百万円、長期借入金の返済による支出が1,063百万円及び長期借入れによる収入が520百万円等により、前年同四半期連結累計期間に比べ4,348百万円減少し、3,563百万円となりました。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年5月14日に発表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	45,538	51,323
受取手形及び売掛金	5,132	5,091
有価証券	4,969	—
たな卸資産	6,252	6,305
その他	5,660	6,876
貸倒引当金	△175	△177
流動資産合計	67,378	69,419
固定資産		
有形固定資産		
カラオケ賃貸機器 (純額)	9,794	9,520
カラオケルーム及び飲食店舗設備 (純額)	19,299	19,303
土地	38,053	38,053
その他 (純額)	8,258	8,177
有形固定資産合計	75,405	75,054
無形固定資産		
のれん	4,065	3,733
その他	6,198	6,579
無形固定資産合計	10,263	10,313
投資その他の資産		
投資有価証券	5,288	5,404
敷金及び保証金	14,263	14,954
その他	7,656	7,678
貸倒引当金	△65	△64
投資その他の資産合計	27,142	27,972
固定資産合計	112,812	113,340
資産合計	180,190	182,759

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,421	3,550
短期借入金	4,015	3,998
1年内償還予定の社債	—	6,500
未払法人税等	4,652	4,068
賞与引当金	1,128	1,596
その他	12,146	10,547
流動負債合計	25,365	30,261
固定負債		
社債	6,500	—
長期借入金	12,587	12,256
役員退職慰労引当金	1,047	822
退職給付に係る負債	6,176	6,429
その他	3,157	3,497
固定負債合計	29,469	23,006
負債合計	54,834	53,268
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,350	12,350
資本剰余金	4,003	4,003
利益剰余金	108,489	112,552
自己株式	△1,309	△1,309
株主資本合計	123,534	127,597
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,261	1,218
土地再評価差額金	△733	△733
為替換算調整勘定	87	89
退職給付に係る調整累計額	△356	△309
その他の包括利益累計額合計	258	264
新株予約権	203	250
非支配株主持分	1,359	1,379
純資産合計	125,356	129,491
負債純資産合計	180,190	182,759

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
売上高	69,022	69,823
売上原価	41,544	42,448
売上総利益	27,478	27,374
販売費及び一般管理費	16,701	16,900
営業利益	10,776	10,474
営業外収益		
受取利息	25	35
受取協賛金	173	169
為替差益	235	219
その他	540	568
営業外収益合計	975	993
営業外費用		
支払利息	161	81
解約違約金	18	76
その他	97	84
営業外費用合計	278	242
経常利益	11,474	11,225
特別利益		
固定資産売却益	97	7
固定資産譲受益	24	—
投資有価証券売却益	0	61
特別利益合計	121	68
特別損失		
固定資産処分損	71	41
減損損失	122	9
特別損失合計	193	50
税金等調整前四半期純利益	11,401	11,243
法人税、住民税及び事業税	3,997	3,928
法人税等調整額	△1	29
法人税等合計	3,995	3,957
四半期純利益	7,405	7,285
非支配株主に帰属する四半期純利益	31	32
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,373	7,253

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益	7,405	7,285
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	126	△43
為替換算調整勘定	△15	1
退職給付に係る調整額	51	46
その他の包括利益合計	162	5
四半期包括利益	7,568	7,291
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,536	7,258
非支配株主に係る四半期包括利益	31	32

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	11,401	11,243
減価償却費	7,328	7,237
のれん償却額	299	331
減損損失	122	9
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△89	△224
受取利息及び受取配当金	△78	△124
支払利息	161	81
為替差損益(△は益)	△254	△252
固定資産譲受益	△24	—
投資有価証券売却損益(△は益)	△0	△61
固定資産処分損益(△は益)	△25	34
売上債権の増減額(△は増加)	1,677	41
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,044	△48
カラオケ貸貸機器の売上原価振替	11	37
仕入債務の増減額(△は減少)	472	126
未払金の増減額(△は減少)	△1,431	△908
その他	△1,220	142
小計	17,308	17,665
利息及び配当金の受取額	107	125
利息の支払額	△218	△81
法人税等の支払額	△2,939	△4,470
その他	38	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,296	13,239
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△567	△37
定期預金の払戻による収入	573	48
有形固定資産の取得による支出	△6,638	△5,032
有形固定資産の売却による収入	144	11
無形固定資産の取得による支出	△1,875	△2,247
映像使用許諾権の取得による支出	△714	△1,009
投資有価証券の売却による収入	5	61
投資有価証券の取得による支出	—	△181
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△5,142	—
貸付けによる支出	△285	△58
貸付金の回収による収入	246	233
敷金及び保証金の差入による支出	△154	△1,111
敷金及び保証金の回収による収入	367	141
その他	90	82
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,951	△9,101

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	72	186
長期借入れによる収入	900	520
長期借入金の返済による支出	△1,218	△1,063
社債の償還による支出	△3,500	—
配当金の支払額	△3,141	△3,190
自己株式の取得による支出	△1,001	△0
その他	△22	△15
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,911	△3,563
現金及び現金同等物に係る換算差額	254	252
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△7,313	826
現金及び現金同等物の期首残高	61,254	49,736
現金及び現金同等物の四半期末残高	53,941	50,563

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	32,107	28,907	4,022	65,038	3,984	69,022	—	69,022
セグメント利益又は 損失(△) (営業利益又は営業 損失(△))	7,888	3,566	△3	11,451	784	12,236	△1,459	10,776

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、BGM放送事業、Web事業及び不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,459百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産の減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な異動)

「カラオケ・飲食店舗事業」において、株式会社Airsideの全株式を取得したことに伴い、連結の範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間において、3,603百万円であります。

当第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	31,941	30,031	3,606	65,578	4,244	69,823	—	69,823
セグメント利益又は 損失(△) (営業利益又は営業 損失(△))	8,082	3,054	△99	11,036	830	11,867	△1,393	10,474

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、BGM放送事業、Web事業及び不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,393百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。